九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

# 我が国の児童合唱文化形成に関する一考察(Ⅱ)：阪田寛夫作詞 ・ 山本直純作曲《遠足》の歌詞改訂を通して

井上, 博子
小田原短期大学保育学科 ： 准教授 ： 音楽教育学、児童文化学

https://doi.org/10.15017/4370218

出版情報：総合文化学論輯. 12, pp.1-14, 2020-05-01. Japan Institute for Comprehensive Cultural Studies
バージョン：
権利関係：

# 我が国の児童合唱文化形成に関する一考察（Ⅱ）
## －阪田寛夫作詞・山本直純作曲《遠足》の歌詞改訂を通して－

井上　博子

## １．はじめに

1964（昭和 39）年５月５日の子どもの日に NHK ラジオで放送された阪田寛夫作詞・山本直純作曲「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」は、我が国の児童合唱文化転換のきっかけとなる革新性を持っていた。《遠足》[1]は、児童合唱のためにも成人合唱と同様に「合唱組曲」という分野が必要であることを示した。[2]だが、「山本直純合唱曲選集１」として、「合唱組曲《遠足》」が出版されたのは、放送から 19 年後の 1983（昭和 58）年であった。楽譜出版に際し、山本直純は次のように記述している。

> この組曲は、NHK の委嘱により、昭和 39 年に作曲したものですが、いらい、度重なる出版の依頼や誘いに応ぜず、今日まで温めてきた理由は、特定の合唱団のために作曲したものであること。再演を重ねながら、更に推敲を図り、いずれ一般の合唱団向きに直したかったこと。などによるものです。[3]

山本直純のいう特定の合唱団とは、「東京放送児童合唱団」である。特定の合唱団が演奏することを前提として作曲された《遠足》は、高度な演奏技術を必要とした。その当時の一般的な少年少女合唱団が演奏するには困難があると受け止められ、山本直純は、「いずれ一般の合唱団向きに直したい」という気持ちを持っていた。

2007（平成 19）年に、山本純ノ介・古橋富士雄の校訂による「児童合唱と管弦楽のための組曲《えんそく》〈ピアノ・ディダクション版〉」が発刊された。だが、1964（昭和 39）年の NHK ラジオ放送から、1983 年のピアノ伴奏版を経て、この〈2007 年ピアノ・ディダクション版〉までに何カ所か歌詞の改訂が行われている。

本研究は、「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」が、どのような改訂を経て 2007 年版の楽譜となったかを検証するものである。児童合唱文化形成の過渡期に新ジャンルを切り開いた本作品を掘り下げ、歌詞の改訂が持つ意味や歌詞の普遍性について考察し、児童合唱文化形成に関する基礎資料を拡大することを目的としている。

研究の方法としては、楽譜や録音資料を精査し、歌詞改訂の過程を資料面から明らかにする。また、《遠足》を演奏した当時の東京放送児童合唱団の活動が、地方の児童合唱団にどのような影響を与えたのかにも言及したい。

研究にあたっては、1964（昭和 39）年に NHK ラジオで放送された時の録音媒体（オープンリール）、1973（昭和 48）年に録音、発刊されたレコード、1983（昭和 58）年出版の

楽譜、1987（昭和 62）年に鎌田憲三郎指揮によって演奏された時の楽譜草稿、2007（平成 19）年出版のピアノ・ディダクション版楽譜などの資料を手がかりとしている。

## ２．児童合唱と管弦楽のための組曲《えんそく》

### （１）制作の経緯

この合唱組曲が発表された当時のことを、NHK の番組プロデューサーであった後藤田純生は次のように述べている。

> 合唱組曲《えんそく》が企画され、初めてラジオ放送されたのは、昭和 39 年５月であった。当時急速なテンポで充実しつつあった少年少女合唱界に、ひとつのエポックをつくるような作品をつくりたいと考えたのが発端である。通例の合唱曲と言えばピースの作品が多いが、ピース中心のレパートリーは、練習においても、演奏会や放送においても、平板単調になり、聴く方の印象も散漫になり易い。そこで、合唱団にとっては、“よしやるぞ”という目標になり聴く方にとっても、大きな感銘を受ける“大作”として、合唱組曲の決定版が求められたわけである。[4)]

聴衆に、より強いメッセージを送るために組曲として構成し、組曲の持つ力に期待していたことを窺い知ることができる。作曲者である山本直純は、「NHK 東京放送児童合唱団を指揮して」として、次のように述べている。

> 童謡や唱歌から出発した日本の児童合唱のレベルがようやく、この高さに達し、富士山でいえば、五合目をすぎて、遂に胸つき八丁にさしかかった事を感じる。･･･（中略）･･･児童合唱に対する、一般の認識や、社会的配慮も未だ乏しい日本の現状で、音楽に懸ける情熱と、子供たちの純粋な夢と希望が、児童合唱の今日の水準を造り上げたと言えよう。[5)]

山本直純は 1962（昭和 37）年に、北海道放送 HBC の依頼で、「合唱組曲《田園・わが愛》、作詞：寺山修司」を作曲しているが[6)]、これは成人合唱のためのものであり、山本直純にとっても児童合唱を対象とした合唱組曲は、《遠足》が初めてであった。

作詞者である阪田寛夫は、1983（昭和 58）年版の前書きに次のように記述している。

> 20 年ほど前に、「遠足」を書いた頃のことを思うと、胸が熱くなります。まだその時代は、少年合唱のための本格的な組曲というものが、ほとんどありませんでした。いや、少年少女合唱団そのものの数も少なかったのです。

「みんなの歌」の時間を担当しておられたNHKの後藤田純生さんから、「子供の日」の放送のために、「遠足」を主題に、組曲の歌詞を書くように言われたのは、まだ寒い季節だったのですが、私はまず一番に青梅の方へ自分が遠足に出かけたのを覚えています。そして外からみた遠足ではなくて、内側から湧きおこる遠足を、ここでは表現して見たい物だと思いました。やがて、山本直純さんが作曲なさったばかりの前半の数曲を、東京放送児童合唱団の人々が歌われたのを初めて聴いた時のうれしさは、うまく言葉で語れません。

こんなに自在で、活き活きと、自分の音楽を主張する児童のための合唱曲を、それまで私は聴いたことがありませんでした。そして大人が代わりをつとめることは無理で、少年少女でなければ、そのいのちが伝えられない曲であることを、「N児」の歌声は私に照明してくれたのでした。[7)]

このようにして、阪田寛夫作詞・山本直純作曲「児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》」は生まれた。

（２）《遠足》演奏史

《遠足》は、「１．光る」、「２．ズンタ・ズンタ！」、「３．おべんとう」、「４．城あと」、「５．山の上の合唱」、「６．家路」の６曲によって構成されている。全曲を通しての主な演奏史は以下である。

○1964（昭和39）年５月５日：NHKの委嘱により作成、ラジオ第一放送で初演
　　児童合唱と管弦楽のための組曲《遠足》
　　指揮：山本直純
　　管弦楽：管弦楽新室内楽協会
　　合唱：東京放送児童合唱団
　　指導：古橋富士雄
○1968（昭和43）年12月14日
　　ピアノ伴奏版初演
　　指揮：戸崎裕子
　　ピアノ：志津野尚子
　　合唱：静岡児童合唱団
○1983（昭和58）年５月３日
　　ピアノ伴奏改訂版初演
　　東京郵便貯金ホール
　　指揮：鎌田典三郎

ピアノ：吉田雅博

合唱：西六郷少年少女合唱団

○2006（平成 18）年 8 月 25 日

オーバード・ホール「AUBADE 夏の音楽会」

指揮：古橋富士雄

ピアノ：清水香里

児童合唱・AUBAD ジュニア・コーラス

○2007（平成 19）年 7 月 14 日

オリジナル新訂版（オーケストラ伴奏）初演

富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）《オーケストラと遊ぼう》

指揮：井上道義

管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

合唱：AUBADE ジュニア・コーラス

指導：古橋富士雄

○2013（平成 25）年 12 月 11 日

すみだトリフォニーホール「『オーケストラがやって来た』が帰って来た！」

指揮：井上道義

管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

児童合唱：成城学園初等学校合唱部と OB・OG

○2014（平成 26）年 9 月 21 日

杉並公会堂「山田和樹コンチェルトシリーズ Vol.3」[8)]

指揮：山田和樹

管弦楽：日本フィルハーモニー交響楽団

児童合唱：杉並児童合唱団

指導：津嶋麻子

○2016（平成 28）年 8 月 21 日

倉敷市民会館「第 100 回くらしきコンサート」

指揮：山田和樹

管弦楽：ジュニアグランドオーケストラ 2016

倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ

児童合唱：桃太郎少年合唱団、岡山市ジュニア合唱教室、倉敷少年少女合唱団

○2018（平成 30）年 3 月 18 日

相馬市民会館「第 4 回エル・システマ子ども音楽祭 in 相馬」

指揮：古橋富士雄

ピアノ：野間春美

児童合唱：相馬子どもコーラス

《遠足》は、児童合唱としては高度な演奏能力が求められる上にオーケストラ伴奏が設定されているので演奏回数が多いとは言えない。だが、記念の大会や大がかりで華やかな演奏曲が必要とされるときに相応しい作品として演奏されていることが窺える。

## ３．歌詞の主な改訂

### （１） 歌詞改訂の比較

歌詞改訂を比較したものが次の表である。改訂部分を下線で示す。

| 1964（昭和 39）年５月５日<br>NHK 委嘱により初演<br>作詞：阪田寛夫<br>作曲：山本直純<br>NHK ラジオ第一放送録音資料<br>指揮：山本直純<br>管弦楽：新室内楽協会<br>合唱：東京放送児童合唱団 | 1983（昭和 58）年<br>山本直純合唱曲選集１<br>合唱組曲《遠足》<br>ピアノ伴奏版<br>作詞：阪田寛夫<br>作曲：山本直純<br>音楽之友社 | 2007（平成 19）年<br>児童合唱と管弦楽のための組曲<br>〈ピアノ・ディダクション版〉<br>作詞：阪田寛夫<br>作曲：山本直純<br>山本純ノ介・古橋富士雄校訂<br>音楽之友社 |
|---|---|---|
| **１．光る**<br>光る<br>光る雲は　ぼくらの仲間<br>走る<br>走る雲は　ぼくらのめあて<br>　見あげれば　まぶしくて<br>　峠の上は　空ばかり<br>光る<br>光る　雲の峰<br>その果てまでも　かけて行こう<br><br>光る<br>光る樹々は　ぼくらの仲間<br>匂う<br>匂う樹々は　ぼくらを招く<br>　見あげれば　高々と<br>　梢の先は　天を指し<br>光る<br>光る　樹々の青<br>豊かに匂う　今日の日が<br><br>（３番は歌っていない） | **１．光る**<br>光る<br>光る雲は　ぼくらの仲間<br>走る<br>走る雲は　ぼくらのめあて<br>　見あげれば　まぶしくて<br>　峠の上は　空ばかり<br>光る<br>光る　雲の峰<br>その果てまでも　かけて行こう<br><br>光る<br>光る樹々は　ぼくらの仲間<br>匂う<br>匂う樹々は　ぼくらを招く<br>　見あげれば　高々と<br>　梢の先は　天を指し<br>光る<br>光る　樹々の青<br>ゆたかに匂う　今日の日が<br><br>光る<br>光る風は　ぼくらの仲間<br>うたう<br>うたう風は　ぼくらのこころ<br>　足音も　かるがると<br>　かがやく顔だ　だれもかも<br>光る<br>光る　風にのり<br>こころは空を　かけまわる | **１．光る**<br>光る<br>光る雲は　ぼくらの仲間<br>走る<br>走る雲は　ぼくらのめあて<br>　見あげれば　まぶしくて<br>　峠の上は　空ばかり<br>光る<br>光る　雲の峰<br>その果てまでも　かけて行こう<br><br>光る<br>光る樹々は　ぼくらの仲間<br>匂う<br>匂う樹々は　ぼくらを招く<br>　見あげれば　高々と<br>　梢の先は　天を指し<br>光る<br>光る　樹々の青<br>豊かに匂う　今日の日が<br><br>光る<br>光る風は　ぼくらの仲間<br>うたう<br>うたう風は　ぼくらの心<br>　足音も　軽々と<br>　輝く顔だ　だれもかも<br>光る<br>光る　風にのり<br>こころは空を　かけまわる |
| **<u>２．ズンタ・ズンタ！</u>**<br>あつまれ<br>きをつけ<br>前へ　ならえ<br>なおれ | **<u>２．ズンタ・ズンタ！</u>**<br>アツマレ<br>キヲツケ<br>マエヘ　ナラエ<br>ナオレ | **<u>２．歩く時のうた</u>**<br>あつまれ<br>きをつけ<br>前へ　ならえ<br>なおれ |

| | | |
|---|---|---|
| やすめ<br>きをつけ<br>番号<br>１，２，３，４，５，６，７，８，９,10,11,12<br>やすめ<br>きをつけ<br>前へ進め！<br><br>ザ　ザ　ザ　ザ<br>ズンタズンタ　ズンタ　ズンタ<br>ズンタザック　ズンタザック<br>ピイチク　ピイチク<br>テッペンカケタカ<br>テッペンカケタカ<br>ズンタザック　ズンタザック<br><br>うんとこ　よっこらしょ<br>ああくたびれた　やすもうよ<br>もうへとへとだ　やすもうよ<br>休憩まだ？<br>休憩まだ？<br>おなか　ペコペコペコペコよ<br><br>休憩だ<br>全体　とまれ<br>休憩！<br>ワーイ！<br><br>**３．おべんとう**<br>ごはんのうえに　かつおぶし<br>かつおの上に　またごはん<br>そのまた上に　かつおぶし<br>かつぶしごはんだ　すてきだろ<br><br>どこからたべても<br>でてくるかつおぶし<br><br>ごはんの上に　いりたまご<br>たまごの上に　またごはん | ヤスメ<br>キヲツケ<br>バンゴウ<br>１，２，３，４，５，６，７，８，９，10, 11, 12, 13, 14, 15, 16<br>ヤスメ<br>キヲツケ<br>マエヘススメ<br><br>ザ　ザ　ザ　ザ<br>ズンタズンタ　ズンタ　ズンタ<br>ズンタザック　ズンタザック<br>ピイチク　ピイチク<br>テッペンカケタカ<br>テッペンカケタカ<br>ズンタザック　ズンタザック<br><br>うんとこよっこらしょ<br>ああくたびれた　やすもうよ<br>もうへとへとだ　やすもうよ<br>きゅうけいまだ？<br>きゅうけいまだ？<br>おなか　ぺこぺこぺこぺこよ<br><br>「休けいだ」<br>ゼンタイトマレ<br>キュウケイ<br>ワーイ！<br><br>**３．おべんとう**<br>ごはんのうえに　かつおぶし<br>かつおのうえに　またごはん<br>そのまたうえに　かつおぶし<br>かつぶしごはんだ　すてきだろ<br>（すてきだね　すてきだ<br>すてきだろ）<br>どこからたべても<br>でてくるかつおぶし<br>（すてきだね　すてきだ<br>すてきだろ）<br><br>スープにラーメン<br>ビーフシチュー<br>てんどんチャーハンゆげがでる<br>コロッケハンバーグほっかほか<br>ひえたべんとう　やだもんね<br>スキヤキ　ジュジュジュ<br>やきにく　ジュジュジュ<br>できたてがいいんだほっかほか<br>それもそうだが　やっぱり<br>えんそくは<br>はやくおきた　かあさんの<br>つめたべんとうが　いいんだ<br>つめたいけれど　あったかい<br>かあさんのべんとうがいい――<br><br>ごはんのうえに　いりたまご<br>たまごのうえに　またごはん | やすめ<br>きをつけ<br>番号<br>１，２，３，４，５，６，７，８，９，10, 11, 12<br>やすめ<br>きをつけ<br>前へ進め！<br><br>ザ　ザ　ザ　ザ<br>ズンタズンタ　ズンタ　ズンタ<br>ズンタザック　ズンタザック<br>ピイチク　ピイチク<br>テッペンカケタカ<br>テッペンカケタカ<br>ズンタザック　ズンタザック<br><br>うんとこ　よっこらしょ<br>ああくたびれた　やすもうよ<br>もうへとへとだ　やすもうよ<br>休けいまだ？<br>休けいまだ？<br>おなか　ペコペコペコペコよ<br><br>「休けいだ」<br>全体　とまれ<br>休けい<br>ワーイ！<br><br>**３．おべんとう**<br>ごはんのうえに　かつおぶし<br>かつおの上に　またごはん<br>そのまた上に　かつおぶし<br>かつぶしごはんだ　すてきだろ<br><br>どこからたべても<br>でてくるかつおぶし<br><br>ごはんの上に　いりたまご<br>たまごの上に　またごはん |

| | | |
|---|---|---|
| そのまた上に　いりたまご<br>いりたまごはんだ　すてきだろ<br><br>どこからたべても<br>でてくるいりたまご | そのまたうえに　いりたまご<br>いりたまごはんだ　すてきだろ<br>（すてきだね　すてきだ<br>　すてきだろ）<br>どこからたべても<br>でてくるいりたまご<br>（すてきだね　すてきだ<br>　すてきだろ） | そのまた上に　いりたまご<br>いりたまごはんだ　すてきだろ<br><br>どこからたべても<br>でてくるいりたまご |
| **４．城あと**<br>お城のあとの　ひるさがり<br>ふしぎにねむく　ねむくなる<br>石垣の上に　白い雲<br>みているうちに　夢の中<br><br>やじりが胸に　くいこんで<br>無念のまなこで　空をみる<br>しんと静かな　ひるさがり<br>さむらい大将　左馬之助<br>雄々しく一人　息絶える<br><br>どこかで　馬の<br>あしおとが・・・<br><br>お城のあとの　ひるさがり<br>あんなにたかく　たかく鳶<br>石垣の上に　青草が<br>静かにゆれる　夢のあと | **４．城あと**<br>お城のあとの　ひるさがり<br>ふしぎにねむく　ねむくなる<br>いしがきのうえに　しろいくも<br>みているうちに　ゆめのなか<br><br>杉の木いっぽん　やまかげに<br>そのうえかけてく騎馬の武士<br>しんと静かな　ひるさがり<br>鎧とかぶと　金いろに<br>きらりと光り　もう見えぬ<br><br>どこかで　馬の<br>あしおとが・・・<br><br>お城のあとの　ひるさがり<br>あんなにたかく　たかくトビ<br>いしがきのうえに　あおくさが<br>しずかにゆれる　ゆめのあと | **４．城跡**<br>お城のあとの　ひるさがり<br>ふしぎにねむく　ねむくなる<br>石垣の上に　白い雲<br>見ているうちに　夢の中<br><br>杉の木一本　山かげに<br>そのうえかけてく騎馬の武士<br>しんと静かな　ひるさがり<br>鎧とかぶと　金色に<br>きらりと光り　もう見えぬ<br><br>どこかで　馬の<br>あしおとが・・・<br><br>お城のあとの　ひるさがり<br>あんなにたかく　たかく鳶<br>石垣の上に　青草が<br>静かにゆれる　夢のあと |
| **５．山の上の合唱**<br>ヤッホー<br>おーい<br>ラララララララー<br><br>日本の国は<br>あっちのほうから<br>こっちのほうへとのびている<br>空はきっかり青いけれど<br>西日本は雨ですね<br>ざわざわ鳴ってる森林地帯<br>スギですか？<br>モミですか？<br>木ののびぐあいはどうでしょう<br><br>よういどんで<br>かけだせ<br>この坂おりたら　太平洋<br>クジラのにおいがしませんか？<br>イルカはいないか　いるかいな<br><br>大きくいきをすいこめば<br>目はくらくらと金の砂<br><br>見えない風がふいていて<br>雲はちりぢりあんなにはやい<br>まわる　まわる<br>地球がまわる<br>この山をのせて | **５．山の上の合唱**<br>ヤッホー　「ヤッホー」<br>おーい　「おーい」<br>ラララララララー<br>　「ラララララララー」<br><br>日本の国は<br>あっちのほうから<br>こっちのほうへとのびている<br>空はかっきり青いけれど<br>西日本は雨ですね<br>ざわざわ鳴ってる森林地帯<br>スギですか？<br>モミですか？<br>木ののびぐあいはどうでしょう<br><br>よういどんで<br>かけだせ　かけだせ<br>この坂おりたら太平洋<br>クジラのにおいはしませんか？<br>イルカはいないかいるかいな<br><br>大きくいきをすいこめば<br>目はくらくらと金の砂<br><br>見えない風がふいていて<br>雲はちりぢりあんなにはやい<br>まわる　まわる<br>地球はまわる<br>この山をのせて | **５．山の上の合唱**<br>ヤッホー<br>おーい<br>ラララララララー<br><br>日本の国は<br>あっちのほうから<br>こっちのほうへとのびている<br>空はきっかり青いけれど<br>西日本は雨ですね<br>ざわざわ鳴ってる森林地帯<br>スギですか？<br>モミですか？<br>木ののびぐあいはどうでしょう<br><br>よーいどんで<br>かけだせ<br>この坂おりたら　太平洋<br>クジラのにおいがしませんか？<br>イルカはいないか　いるかいな<br><br>大きくいきをすいこめば<br>目はくらくらと金の砂<br><br>見えない風がふいていて<br>雲はちりぢりあんなにはやい<br>まわる　まわる<br>地球がまわる<br>この山をのせて |

| | | |
|---|---|---|
| 地球がまわる<br><br>**６．家路**<br>もうそろそろ　帰ろうよ<br>おなかも　ぺこぺこだよ<br>あんなに赤い　夕焼けが<br>背中をどんどん　押してくる<br>もう五時すぎた　帰ろうよ<br><br>家ではね　母さんが<br>首をのばして　待っている<br>おみやげは　足のまめ<br>ほら　とっとこ　いそぎ足<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　元気よく<br>かえろうよ<br>おなか　すいたけど<br><br>あんなに赤い　夕焼けが<br>帰りのマーチを　うたってる<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　元気よく<br>かえろうよ<br>みんな　さようなら<br><br>さっさっ　さよなら<br>さよならグッバイ<br>さよならグッバイ　また明日<br>みんな元気に<br>かえろうよ！ | 地球はまわる<br><br>**６．家路**<br>もうそろそろ　帰ろうよ<br>おなかも　ペコペコよ<br>あんなに赤い　夕焼けが<br>背中をどんどん　押してくる<br>もう五時すぎた　帰ろうよ<br><br>家ではね　かあさんが<br>首をのばして　待っている<br>おみやげは　足のまめ<br>そら　とっとこ　いそぎ足<br><br>ほっぺたが　ちりちりと<br>夕日の色に　陽やけした<br>あしたまた　会えるけど<br>じゃあひとまず　おわかれね<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　げんきよく<br>かえろうよ<br>おなか　すいたけど<br><br>さあさ　うたおうよ<br>さよならのうたを<br>ふりむけば<br>山もおじぎする<br><br>あんなに赤い　夕焼けが<br>帰りのマーチを　うたってる<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　げんきよく<br>かえろうよ<br>みんな　さようなら<br><br>サ　サ　さよなら<br>さよならグッバイ<br>さよならグッバイ　また明日<br>みんなげんきに<br>さようなら<br>アーアーアーアーーーー<br>さようなら―！ | 地球がまわる<br><br>**６．家路**<br>もうそろそろ　帰ろうよ<br>おなかも　ペコペコだ<br>あんなに赤い　夕焼けが<br>背中をどんどん　押してくる<br>もう五時すぎた　帰ろうよ<br><br>家ではね　母さんが<br>首をのばして　待っている<br>おみやげは　足のまめ<br>そら　とっとこ　いそぎ足<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　元気よく<br>かえろうよ<br>おなか　すいたけど<br><br>あんなに赤い　夕焼けが<br>帰りのマーチを　うたってる<br><br>さあさ　かえろうよ<br>みんな　元気よく<br>かえろうよ<br>みんな　さようなら<br><br>サ　サ　さよなら<br>さよならグッバイ<br>さよならグッバイ　また明日<br>みんなげんきに<br>かえろうよーーーーー！ |

（２）歌詞改訂のまとめ

①曲名の変更

・合唱組曲としてのタイトル 1983 年版：《遠足》漢字表記
　　2007 年版：《えんそく》ひらがな表記

・曲名表記の変更　1983 年版：「ズンタ・ズンタ！」
　　2007 年版：「歩く時のうた」
　　1983 年版：「城あと」
　　2007 年版：「城跡」

②歌詞の追加

・1983 年版では、「おべんとう」の歌に下記の歌詞が存在するが 2007 年版の楽譜では削除されている。1964 年初演演奏、1973 年に発売されたレコード録音、2009

年発売の CD 録音においてもカットされている。

スープにラーメン　ビーフシチュー
てんどんチャーハン　ゆげがでる
コロッケハンバーグ　ほっかほか
ひえたべんとう　やだもんね
すきやきジュジュジュ　やきにくジュジュジュ
できたてがいいんだ　ほっかほか
スープにラーメン　ビーフシチュー
てんどんチャーハン　ほっかほか
それもそうだがやっぱり　えんそくは
はやくおきた　かあさんの
つめたべんとうが　いいんだ
つめたいけれど　あったかい

・1983 年版の楽譜には最終曲《家路》に下記の 2 カ所に追加が見られる。

a．ほっぺたが　ちりちりと
夕日の色に　陽やけした
あしたまた　会えるけど
じゃあひとまず　おわかれね

さあさ　うたおうよ　さよならの歌を
ふりむけば　山も　おじぎする

b．最後に「アーアーアーアーアー」

③言葉や文末、助詞の変更

・クジラのにおいが（1964）→ クジラのにおいは（1983）
・地球はまわる（1964）→ 地球がまわる（1983）
・ほらとっとこ（1964）→ そらとっとこ（1983）
・みんな元気に帰ろうよ（1964）→ みんな元気にさようなら（1983）

④初演歌詞の変更
・出版されている楽譜はすべて「杉の木一本山かげに／そのうえかけてく騎馬の武士／鎧とかぶと金色に／きらりと光りもう見えぬ」となっているが、1964（昭和39）年 5 月 5 日初演の録音では、次のように歌われている。

やじりが胸にくいこんで／無念のまなこで空をみる
さむらい大将左馬之介／雄々しく一人息絶える

・この歌詞で表記されている楽譜は一冊もなく、歌われたのは初演のこの一回のみであると考えられる。子どもの歌なので、「無難な歌詞」を、という指摘がなされたのではないかと推測される。

（３）歌詞改訂の背景
①歌詞改変理由や時期
・歌詞改訂の理由としては、一般的に次のようなことが考えられる。

a. 児童にとって難解な言葉を、その精神は変えずに変更する。（文語体を口語体にする、難解な語句を平易な語句で言い換えるなど）
b. 歌詞改訂の時点では、あまり使われなくなった用語を現代用語に訂正する。
c. 歌いやすさを求めてメロディのリズムや抑揚に合わせて変更する。
d. 情景や心象描写をより深めるために、形容詞や副詞、助詞を変更する。

・1983 年版は歌詞のひらがな表記が多い。「ズンタ・ズンタ！」での号令番号が 1 から 16 までとなっているなど、細かな違いが散見される。2007 年版の歌詞のページに、「曲中の歌詞は、作曲の都合上により同じでない箇所があります」という注記がなされている。細かな変更はこのような都合によって行われていることが多いのではないかと考えられる。

歌詞の変更は時代を反映する。以前は許されていた歌詞が現在では不適切である判断される場合には、速やかに変更されなければならない。また、歌詞変更の時期としては、演奏会を一つの節目として行われることが多い。次回演奏の機会には、この部分を変更しようとするのが自然である。《遠足》は、1964（昭和 39）年の初演時には、楽譜が出版されていなかった。1983（昭和 58）年の演奏会や 2007（平成 19）年の楽譜出版時は、歌詞改訂の良い機会であったと考えられる。細かな変更がなされているのは、「更に良いものにしたい」ということにほかならない。

②阪田寛夫作詞の方向性

谷は、阪田寛夫の詩作について次のように述べている。

詩の中に子どもの日常卑近な会話体を本格的にもちこんだ詩人は阪田寛夫が最初であろう。それゆえ、「おなかのへるうた」が 1960（昭和 35）年に発表された際、「『かあちゃん／かあちゃん／おなかとせなかが／くっつくぞ』の『かあちゃん』ということばがよくないということで、NHK の放送にはのせられなかったなどという昔ばなしもあり」、「『かあちゃん』ということばが下品であるかどうかはともかく、リアルな生活の実感が溢れる日常的なことばを“詩的”と思えない詩人がまだまだいて、『おなかのへるうた』『おとなマーチ』などは、たしかにはじめからうけとめては貰えず、同感を得られるまでにはけっこう時間がかかった」と、当時の状況をよく知る大中恩は語っている。[9)]

《おなかのへるうた》の「かあちゃん」という言い回しを望ましくないとした NHK が、《城跡》の「やじりが胸にくいこんで／無念のまなこで空をみる／さむらい大将左馬之介／雄々しく一人息絶える」の変更を求めたであろうことは容易に推測される。

また、《遠足》における阪田寛夫の歌詞は、一貫して子どもの視点で書かれている。神宮輝夫は、詩集『ぽんこつマーチ』の後書きに、「お子さまにこの本を与えてくださる方がたに」として、「阪田さんは、いつも子どもになりきってものごとを見たり考えたりできる人なのだと思います」[10)]と記述している。それまでの児童合唱曲になかった日常語の使用は斬新であった。

阪田寛夫の代表作の一つに《夕日が背中をおしてくる》があるが、《遠足》の最終曲《家路》に、「あんなに赤い夕焼けが／背中をどんどん押してくる／もう 5 時過ぎた／帰ろうよ」というフレーズがあり、これは、《夕日が背中をおしてくる》の一節「夕日が背中を押してくる／真っ赤な腕で押してくる」を思い起こさせる。「夕焼け」が擬人化され、「ぼくらの背中」を「はやく家に帰ろうよ」と押してくる。《夕日が背中を押してくる》は、《遠足》よりも後の 1968（昭和 43）年 7 月に NHK「みんなのうた」で放送された。阪田は、《遠足》で使用したモチーフを《夕日が背中を押してくる》において完成させたのではないかと推測される。

また、《おべんとう》作詞当時のことを阪田寛夫の長女内藤啓子は、次のように記述

している。

合唱組曲《えんそく》の中の《お弁当》という詩は、（阿川）佐和子嬢に取材した阿川家の定番弁当の話がもとになっている。ご飯の上に削りたての鰹節と醤油を散らし、その上にまたご飯をのせて、その上に海苔を敷く。ご飯と醤油のしみた鰹節と海苔が層になって美味しそうだ。それをそのまま詩に書いた。[11)]

阪田は、このような日常生活を子どもの言葉で書いた。子どもの視点にたった歌詞は、演奏する合唱団員の気持ちを惹きつけた。山本直純が《お弁当》の歌に輪唱の面白さを取り入れて作曲したこともまた、東京放送児童合唱団の団員たちが熱中して歌ったことに繋がった。熱中して歌った東京放送児童合唱団について次項で述べる。

## ４.《遠足》と東京放送児童合唱団が果たした役割

### （１）東京放送児童合唱団

1943（昭和 18）年に日本放送協会（NHK）が放送合唱団を公募し、音羽ゆりかご会が東京放送児童合唱団に委嘱された。ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」の主題歌《とんがり帽子》などを歌い、「東京放送児童合唱団」として活動した。1951（昭和 26）年の放送法施行に伴い、社団法人日本放送協会が解散した後、特殊法人日本放送協会がその事業を継承し、1952（昭和 27）年、NHK 独自の児童合唱団として東京放送児童合唱団が編成された。発足当時を後藤田純生は次のように記述している。

この N 児が発足したのは、1952（昭和 27）年。当時の日本には、児童合唱団、少年少女合唱団の名称を持つ合唱団はなかった。（正確に書くなら、当時ひばり児童合唱団があったが、これは年少児による童謡合唱団で、若干その性格を異にしていた。）当初は、児童合唱研究会の名が付され、文字通り手さぐりの姿勢であった。

その生みの親は、当時の NHK 教育課長川上行蔵氏（現 NHK 顧問）、初代の指導者は故外山国彦氏である。その後の N 児の揺籃期は、学校合唱の隆盛期と重なる。当時の N 児の主要な活動は、学校合唱の模範演奏であった。昭和 30 年代に入ってからの指導者は、富田正教氏。昭和 36 年、NHK テレビ番組「みんなのうた」が、少年少女合唱を前面に押し出してから、N 児の周囲の状況が一変する。創立 10 周年とともに、「みんなのうた」に登場した N 児は、次第にその中心的存在となって行くのである。

以来、「みんなのうた」、「歌のメリーゴーラウンド」、「NHK 紅白歌合戦」、「NHK 全国学校音楽コンクール」などの NHK の音楽番組、教育番組に出演し、その活動は全国の音楽好きの指導者や子どもたちに注目されるようになり、地方に少年少女合唱団が誕生するきっかけともなった。2003（平成 15）年、NHK 東京児童合唱団に改称され、日本放送協会関連の任意団体として児童音楽番組編成の際に活動している。

### （２）地方の少年少女合唱団の活性化

《遠足》は、子どもの日の放送のために東京放送児童合唱団が演奏することを前提として作曲された。東京放送児童合唱団について後藤田純生は次のように記述している。N 児というのは東京放送児童合唱団の愛称である。

昭和 38 年から昭和 39 年に入って、N 児の活動はいよいよ真価を発揮し始める。「みんなのうた」の爆発的な人気は、「たのしいうた」、「歌のメリーゴーラウンド」などの姉妹番組を生んだ。それには、これらの番組の背後で、たくましく育ちつつあった、N 児を中心とする少年少女合唱の存在も、あずかって力があったと云わねばならないであろう。手前味噌ながら、これら一連の番組の担当者であった私は、少年

少女合唱、とくにN児の可能性を、フルに育ててみようと思ったのである。
このころのN児のメンバーの意欲はすさまじいものであった。とくに小学校５・６年から中学生メンバーあたりの上級メンバーたちは、生まれてはじめての「歌うこと」の意味と喜びに興奮していたといっても差し支えない。それは、ちょうどその時期にN児に参加した若くて有能な指導者古橋富士雄君を得たことも幸運であった。
折りも折り、昭和39年のはじめ、この急激な盛り上がりを見せた、N児のエネルギーは、もうひとつの副産物まで生んでしまった。それは同年５月３日にNHKのラジオで放送された、児童合唱のための組曲「遠足」の初演である。[12)]

1952（昭和27）年当時の我が国には「児童合唱団」、「少年少女合唱団」の名称を持つ団体は殆どなかった。1955（昭和30）年にウィーン少年合唱団が初来日し、少年合唱団の存在が注目を集め、各地で少年合唱団や少年少女合唱団が設立されはじめた。
1957（昭和32）年に第１回全日本少年少女合唱連盟創立演奏会が開催された。その後、東日本少年少女合唱連盟や西日本少年少女合唱連盟の活動が成長、発展し、一時は多数の連盟加入団体を擁して活発な活動を行った。少年少女合唱連盟は現在も活動を継続しているが、少子化の影響なども大きく、加入団体数は減少の傾向にある。
1961（昭和36）年に、「みんなのうた」の放送が開始され、児童合唱団の活躍が目に見えるようになった。最初の１年間は東京少年少女合唱隊が出演していたが、２年目に入ってからは他の団体も起用されるようになり、東京放送児童合唱団、西六郷少年少女合唱団が登場するようになった。
1963（昭和38）年に「たのしいうた」の放送が開始された。「みんなのうた」では、少年少女合唱団の演奏は、関連映像やアニメーションとともに、歌声のみが放送されることが殆どであったが、「たのしいうた」では、少年少女合唱団は生の姿を見せた。週１回、土曜日の僅か10分の番組で、毎月１団体の少年少女合唱団が１ヶ月４回分の出演を受け持ち、１回の放送の中で約３曲が歌われた。１年間の出演団体は次のようなものであった。「たのしいうた」は、２年間放送された。

東京少年少女合唱隊：４月、７月
西六郷少年少女合唱団：５月、９月、11月、３月
フレーベル少年合唱団：６月
東京放送児童合唱団：８月、10月、12月、２月
ビクター少年合唱団：１月

1964（昭和39）年に「歌のメリーゴーラウンド」が放送されるようになった。この番組のねらいは「少年少女合唱の楽しさを全面に押し出す」ことであった。そのために「見ることで音楽が感じられるようにする」、「身体をある程度動かすことや映像全体を美しく構成する」ということに主眼がおかれた。できるだけ多くの少年少女合唱団の出演を求め、それぞれの個性の相違を紹介することもねらいの一つであった。
放送文化の中で活躍する児童合唱団の活動に啓発され、あるいは憧れて地方の児童合唱団が活性化されていった。

## ５．終わりに

山本直純は2002（平成14）年に没し、「再演を重ねながら、更に推敲を図り、いずれ一般の合唱団向きに直したかった」という思いを実現することはできなかったが、2007（平成19）年に長男の山本純ノ介と古橋富士雄の校訂によってピアノ・ディダクション版が発刊された。編曲者という立場で作品の編曲を行うことは可能であるが、歌詞の変更を他者が行うことはできない。時代の移り変わりと共に社会背景にそぐわない歌詞となることは避けがたく、「歩くときのうた」を例にとれば、現在の遠足はこのようなものではないという考え方もあり得る。だが、歌詞は合唱曲として生き続ける。

《遠足》は、大曲であるため演奏回数は多くないとしても、1964（昭和 39）年の初演から、2018（平成 30）年のエル・システマ子ども音楽祭での古橋富士雄の指揮による演奏まで、昭和、平成を通して半世紀以上歌い継がれてきている。2020（令和２）年 6 月 20 日には、神奈川フィル創立 50 周年記念巡回主催公演、指揮：川瀬賢太郎、児童合唱：横須賀芸術劇場少年少女合唱団による演奏予定もある。[13)]

《遠足》は、子どもたちに良質の合唱曲を歌わせたいという関係者の熱意から誕生した。1950 年代に児童合唱が注目されるようになり、現在もなお、新作の合唱曲が数多く出版されている。児童合唱分野における選曲の幅は広い。合唱はジャンルを問わず、人々が営む社会の変化と繋がりが深い。子どものための良質な合唱曲の提供という視点から児童合唱曲における歌詞の普遍性というのはどこにあるのかについて、引き続き研究をすすめたい。

【主要参考文献】


・『合唱事典』（1977）音楽之友社
・『新訂合唱事典』（1983）音楽之友社
・『日本童謡事典』（2006）東京堂出版
・安藤美紀男（1977）『児童文化』朝倉書店
・池田小百合（2003）『子どもたちに伝えたい日本の童謡』実業之日本社
・井手口彰典（2018）『童謡の百年』筑摩選書
・今田絵里香（2007）『「少女」の社会史』勁草書房
・長田暁二（1994）『童謡歌手からみた日本童謡史』大月書店
・海沼実（2003）『童謡心に残る歌とその時代』ＮＨＫ出版
・鎌田典三郎（1983）『実践に即した歌唱指導の手引き』自費出版
・上笙一郎（1976）『日本の児童文化』国土社
・河合隼雄／阪田寛夫／谷川俊太郎／池田直樹（2002）『声の力－歌・語り・子ども』岩波書店
・菅忠道（1968）『児童文化の現代史』大月書店
・河口道朗（1991）『音楽教育の理論と歴史』音楽之友社
・金田一春彦（1978）『童謡・唱歌の世界』主婦の友社
・阪田寛夫（1969）『ぽんこつマーチ』大日本図書
・阪田寛夫（1983）『わが小林一三』河出書房新社
・阪田寛夫（1986）『童謡でてこい』河出書房新社
・阪田寛夫（1995）『どれみそら・書いて創って歌って聴いて』河出書房新社
・佐野美津男（1965）『現代にとって児童文化とは何か』三一書房
・柴田克彦（2017）『山本直純と小澤征爾』朝日新聞出版
・園部三郎／山住正巳（1962）『日本の子どもの歌－歴史と展望』岩波新書
・谷悦子（2007）『阪田寛夫の世界』和泉書院
・内藤啓子（2017）『枕詞はサッちゃん』新潮社
・中田喜直（1993）『音楽と人生』音楽之友社
・長木誠司（2010）『戦後の音楽－芸術音楽のポリティクスとポエティクス』作品社
・戸ノ下達也／横山琢哉編著（2011）『日本の合唱史』青弓社
・滑川道夫／菅忠道編著（1972）『近代日本の児童文化』新評論
・畑中圭一（2007）『日本の童謡－誕生から九〇年の歩み』平凡社
・古橋富士夫監修（2015）『必ず役立つ合唱の本・日本語作品編』株式会社ヤマハミュージックメディア
・東京少年少女合唱隊 LC 基金（2001）『歌おう東京少年少女合唱隊 50 年の挑戦』朝日新聞社
・《児童合唱と管弦楽のための組曲《えんそく》》日本コロムビア COCE-35393 オリジナル版：1970 年発売の再発売（2009）指揮山本直純管弦楽新室内楽協会合唱ＮＨＫ東京児童合唱団（元東京放送児童合唱団指導古橋富士雄）（CD）

・《ライジングー少年合唱団－天使たちのコンサート》（1986）新書館

【座談会】阿川佐和子×内藤啓子×矢代朝子―文士の子ども被害者の会 Season2〈前篇〉
新潮社「波」2018 年 4 月号掲載
https://www.bookbang.jp/review/article/550306　2019.5.17.取得
【座談会】阿川佐和子×内藤啓子×矢代朝子―文士の子ども被害者の会 Season2〈後篇〉
新潮社「波」2018 年 5 月号掲載
https://www.bookbang.jp/review/article/552578/4?all=12019.5.17.取得

---

1) 本稿においては、《えんそく》と《遠足》が混在している。1964 年初演のオープンリールは《遠足》、1983 年出版の山本直純選集 1 では《遠足》、1973 年録音のレコードは《えんそく》、1983 年の楽譜草稿は《遠足》、2007 年出版の楽譜は《えんそく》、2009 年発行の CD は《えんそく》と表記されている。研究テーマは 1983 年発行の初版楽譜の漢字表記《遠足》とした。本文は引用文献に準拠している。

2) 井上博子（2019）「我が国の児童合唱文化形成に関する一考察－児童合唱組曲出版数の推移を通して－」総合文化学会論叢第 10 号 2019.5.1.

3) 「山本直純合唱曲選集 1」（1983）音楽之友社、前書き

4) 児童合唱と管弦楽のための組曲『えんそく』山本直純／ＮＨＫ東京放送児童合唱団 2009：日本コロムビア（株）

5) 児童合唱と管弦楽のための組曲『えんそく』日本コロムビア COCE-35393 オリジナル版：1970 年発売の再発売（2009）指揮山本直純管弦楽新室内楽協会合唱ＮＨＫ東京児童合唱団（元東京放送児童合唱団指導古橋富士雄）、CD 解説書 p.7.

6) 柴田克彦（2017）『山本直純と小澤征爾』朝日新聞出版、p.66.

7) 「山本直純合唱曲選集 1」（1983）音楽之友社、前書き

8) http://tvuch.com/social/154/　2019.5.17.取得
指揮：山田和樹、杉並児童合唱団（指導：津嶋麻子）日本フィルハーモニー交響楽団
阪田寛夫作詩/山本直純作曲：児童合唱と管弦楽のための組曲《えんそく》
2014 年 9 月 21 日杉並公会堂、日本フィル杉並公会堂シリーズ 2014 Vol.3
山田和樹コンチェルトシリーズ Vol.3

9) 谷悦子（2007）『阪田寛夫の世界』和泉選書 pp.149-150.

10) 阪田寛夫（1969）『ぽんこつマーチ』大日本図書 p.55.

11) 内藤啓子（2017）『枕詞はサッちゃん』新潮社、p.14.

12) 現代日本児童合唱名曲選『子供の情景・えんそく』（1973 年録音）阪田寛夫：作詞・山本直純：作曲・合唱：東京放送児童合唱団・指揮：古橋富士雄・ピアノ：田中瑤子 CBS/SONY INC.レコード解説：後藤田純生「作品と合唱団のこと」

13) https://www.yokosuka-arts.or.jp/performance/detail/?id=968　2020.4.4.取得

［A Study on the Formation of Children's Choral Culture in Japan（II）-Through the lyrics revision of "Excursion" written by Hiroo Sakata and composed by Naozumi Yamamoto］

［INOUE, Hiroko・小田原短期大学保育学科准教授、音楽教育学、児童文化学］